

令和5年度 牛久市社会福祉協議会 事業報告書

実施事業名	実施内容	実績成果等
I.その人らしい生き方を支援する。		
1. 人が出会い、ふれあえる場の提供 家族や地域の絆を深め、お互いが理解し合い、支え合える場を作り、かけがえのない人の輪を広げる		
(1) 家族や地域をつなげる環境の整備		
①介護者リフレッシュ事業	○介護者の集い ・12/14 22名 つむぎの館・道の駅グランテラス筑西	・小旅行を通して、参加者同士が楽しく交流することができた。
②介護サロンぬくもり	○介護サロンぬくもりの協働実施（月1回） ・4/10、5/10、6/12、7/10、8/10、9/11、10/10、11/10、12/11、1/10、2/13、3/11 ・参加者延べ118名 ・介護の悩みの共有・介護相談等	・参加者同士の交流を通して、リフレッシュにつながった。
2. 自分自身の表現する場と社会貢献につなげる場の提供 その人らしい生きがいをづくりを支援し、地域において個々の力が発揮できるきっかけをつくる		
(1) 生きがいをづくりの支援		
①盛人の集い	○盛人の集いの開催 ・11/25 牛久運動公園 武道館 ・参加者35名、対象者898名 ・講演 盛人のためのマナー&ライフプラン ・講師 ファイナンシャルプランナー 辻 章嗣氏	・今後のライフプランが再認識できた、また今後の人生の道標になった等の声が多く聞かれた。
②高齢者いきがい活動	○太極拳教室 ・第1・3金曜日（全20回）23名 ・第2・4金曜日（全20回）24名 ○フォークダンス教室 ・第1・3木曜日（全20回）9名 ・第2・4木曜日（全20回）17名 ○シニア向け料理教室 ・10月～12月（全4回）18名	・定期的に体を動かすことにより、参加者の生きがいと健康増進につなげることができた。
(2) 自分の力を地域に活かすきっかけづくり		
①地区社協リーダー研修	○ふれあい便交流会の開催 ・新型コロナウイルス感染症は5類に移行されたが、令和5年度については交流会の開催は中止し、推進協議会への資料配布のみ行った。	・移動店舗ふれあい便は、45停留所を巡回しており、コロナ後も地域の買い物支援活動として重要な役割を担うことができた。
②一家にひとり地域ヘルパー養成研修	○地域ヘルパー養成研修の実施 ・開講期間11/30～2/14のうちの6日間 地域医療連携センター ・修了者10名	・カリキュラムに施設見学実習を加え、6日間の研修を実施し、参加者からは講義内容等好評を得た。

実施事業名	実施内容	実績成果等
Ⅱ.地域住民の生活課題を解決する。		
1. 総合相談・総合支援の充実		
各関係機関・団体等との連携強化を図り、住民の生活課題を早期発見・解決に結びつける仕組みを構築する		
(1) 総合相談窓口の整備と各種相談機関との連携		
①総合相談「あんしんホットライン」の運営等	○専用フリーダイヤル ・常時開設 相談件数 199 件 ○専門相談の設置 相談件数 163 件 【心配ごと相談】 第 1～4 週金曜日 ・主な相談内容は財産管理、相続等 【高齢者に関する相談】 随時 ・家族介護や認知症についての相談	・市民の身近な相談窓口として、法律に関することや近所とのトラブルなど、様々な相談が寄せられており、心配ごとと相談や必要に応じて専門機関等へつなぐことができた。
2. 福祉サービス利用支援の充実		
住民の立場に立った福祉サービス利用の援助や、日常生活における課題に対する支援を行う		
(1) 要援護高齢者への支援の充実		
①地域包括支援センター事業	○総合相談支援業務・権利擁護業務 ・新規相談件数 911 件 （うち高齢者あんしん電話 71 件） ・延べ対応件数 10,242 件 ・グループホーム運営推進会議 20 回 （※新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部書面会議での代替実施） ○包括的・継続的ケアマネジメント業務 ・介護支援専門員連絡協議会開催 4 回 会員数 170 名 ・訪問看護事業所情報交換会 6 回 ・合同勉強会（集合型オンライン併用） 27 名 ○介護予防ケアマネジメント業務 ・指定介護予防支援事業 実施件数 2,807 件 介護予防支援収入 14,017,505 円 ・介護予防・日常生活支援総合事業 実施件数 2,736 件 ケアマネジメント費収入 13,633,716 円 ○訪問調査事業 認定調査件数 89 件 認定調査収入 342,650 円	・延べ対応件数は前年度と比較し、581 件増加。多問題ケースが複数あり、継続して関わる必要があった。高齢者や関係機関からの相談について面談や電話にて対応し、必要な支援につなげることができた。
②地域ケア個別会議事業	・開催回数 4 回（6・9・12・3 月開催） ・検討事例数 8 事例	・マネジメントの実施件数については、令和 4 年度比、指定介護予防支援事業 203 件、介護予防・日常生活支援総合事業 98 件と増加。近隣居宅介護支援事業所の協力を得ながらマネジメントを実施した。
		・多職種が専門的視点から個別のケースを検討することで、自立支援、重度化防止のための介護支援専門員のケアマネジメント支援を行うとともに、地域課題についても話し合った。

実施事業名	実施内容	実績成果等
③認知症初期集中支援事業	・対応件数 5 件 ・チーム員会議 延べ 8 回 ・訪問回数 延べ 17 回 「未受診の認知症が疑われる高齢者への支援」 「未受診の認知症状が顕著な高齢者への支援」	・認知症の診断・受療に繋がり、家族の協力のもと、定期的な受診や服薬ができるようになった。その後介護保険のサービス利用までの支援を行った。
④認知症ケア向上推進事業	○相談対応件数 147 件 ○認知症サポーター養成講座 10 回 ○認知症サポーターステップアップフォロー研修 2 回 ○認知症周知・啓発活動 ・中央図書館にて認知症パネル展開催・認知症ケアパス配布 ・市民向け認知症講演会 34 名 ○認知症サポーター活動 4 回 ○二小オレンジカフェ 2 回 ○多職種連携研修会 77 名	・認知症サポーターステップアップ研修修了者にフォローアップ研修を行い、オレンジカフェの運営等のサポーター活動を展開した。また、パネル展や講演会を実施し、より認知症に対して正しい理解と住みやすい街づくりを目指した活動ができた。
⑤見守り台帳整備事業	登録人数 67 行政区（準行政区含） 3,990 名（65 歳以上高齢者の 16.0%）うち、高齢者世帯数 549 世帯、独居高齢者世帯数 1,558 名	・要援護対象者の相談時に基本情報や緊急連絡先を確認することができ、より円滑な支援に活かすことができた。

(2) 障がい者への支援の充実

①障害者相談支援事業	●一般相談 ○利用者数 - 障害児 63 名 - 障害者 198 名 ○相談件数 3,975 件（児 204 件・者 3,771 件） - 身体障害 450 件（児 11 件・者 439 件） - 重症心身障害 77 件（児 14 件・者 63 件） - 知的障害 571 件（児 60 件・者 511 件） - 精神障害 2,399 件（児 12 件・者 2,387 件） - 発達障害 344 件（児 240 件・者 104 件） - 高次脳機能障害 66 件（児 0 件・者 66 件） - 難病 28 件（児 0 件・者 28 件） - その他 40 件（児 3 件・者 37 件） ○支援方法 - 訪問相談 431 件 - 来所相談 156 件 - 同行 68 件 - 電話相談 2,565 件 - 電子メール・FAX 20 件 - 個別支援会議 45 件 - 関係機関 672 件	・頻回に電話がかかってくる利用者様に対して、回数のルールを決めたことで相談件数は令和 4 年度 4,258 件から約 7%減った。 ・相談方法としては電話相談が最も多く、精神障がいのある方からの不安等の訴えが最も多かった。傾聴や助言を行うことで日々の生活の安定につなげることができた。 ・引きこもりや家族全体に支援が必要な世帯が多く、関係機関と連携しながら継続した支援を行うことができた。
------------	--	--

実施事業名	実施内容	実績成果等
	その他 18 件 ・市受託金収入 31,947,473 円 ●特定指定相談 ○利用実績 契約件数 525 件 (児 218 件・者 307 件) 身体障害 58 件 (児 11 件・者 47 件) 重症心身障害 19 件 (児 6 件・者 13 件) 知的障害 213 件 (児 94 件・者 119 件) 精神障害 95 件 (児 1 件・者 94 件) 発達障害 126 件 (児 106 件・者 20 件) 高次脳機能障害 9 件 (児 0 件・者 9 件) 難病等 5 件 (児 0 件・者 5 件) ・計画案作成件数 260 件 ・モニタリング件数 431 件 ・自立支援費収入 19,051,892 円	・計画相談新規契約件数は、58 件 (者 23 件・児 35 件) であった。 ・令和 5 年度途中で終結となった件数は、21 件 (者 14 件・児 7 件) であった。終結になった理由としては、本人の死亡や転出、サービスを利用しなくなった等である。 ・複数の民間児童発達支援事業所や放課後等デイサービスを利用する児童が増える一方、指定障害児相談支援事業所が少ないため、依頼が集中してしまう傾向が令和 5 年度も続いた。
(3) 社会的援護を必要とする人の権利擁護		
①福祉サービス利用 援助事業	○相談件数 1,436 件 認知症高齢者 385 件 知的障害者 274 件 精神障害者 689 件 その他 88 件 ○契約件数 29 件 認知症高齢者 10 件 知的障害者 6 件 精神障害者 9 件 その他 4 件 ○新規契約件数 5 件 ○解約件数 8 件 ○生活支援員 14 名	・精神障害者、知的障害者の利用者様が、認知症高齢者数を超えた。特に精神障害者からの相談対応が多かった。 ・利用者様については、定期的なモニタリングを実施し、事業利用の必要性を精査したことで、自立できるようになったため、解約に至ったケースもあった。
②成年後見サポート センター事業	○相談支援 230 件 ・初回相談 77 件 (高齢 31 知的障害 6 精神障害 14 その他 26) ・継続相談 153 件 (高齢 66 知的障害 11 精神障害 39 その他 37) ○法人後見業務 (後見 4 保佐 1 補助 0) ○法人後見監督業務 1 件 (市民後見人) ○広報啓発活動 出前講座 8/24 成年後見制度の概要 (69 名) 1/29.30 成年後見制度と日常生活自立支援事業について (19 名) 市社協広報紙掲載	・中核機関における体制整備によって、権利擁護相談が他機関と連携をとれるようになった。 ・出前講座は、介護支援専門員や支援学校 PTA を対象に行い、理解を進めることができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
③成年後見制度利用促進に伴う中核機関委託事業	○支援員活動フォローアップ業務 フォローアップ研修 9/26(7名) 10/26(9名) ○中核機関との連携 ・地域連携協議会への参加 (5/19 10/20) ○運営委員会 (5/22 11/2 3/18) ○地域連携ネットワークの推進 ・牛久市成年後見地域連携協議会 委員委嘱 18名 ・牛久市成年後見地域連携協議会 5/19(15名) 10/20(14名) ○広報機能 ・成年後見制度研修会 7/11(19名) ・パンフレットの配布 事業所 73ヶ所 金融機関 17ヶ所 ・市民向け成年後見研修会 6/5(8名) 6/12(7名) 12/11(7名) 12/18(3名) ○相談機能 ・相談件数 570件 ・チーム形成 24チーム ・チーム支援会議 18回 ・チーム支援対応 232回 ・一次相談事業所連絡会 4回 ・成年後見制度利用促進研修会 2/7(15名) ○成年後見制度利用促進機能 ・成年後見人等候補者調整会議 委員委嘱 7名 調整会議 4/26(1件) 7/6(2件) 9/29(2件) ・市民後見人養成研修修了者向けのフォローアップ研修 11/14(11名) ○後見人支援機能 ・成年後見選任後の相談 3件 ・親族後見人向け後見活動勉強会 9/12(10名) ○不正防止効果の取り組みに向けた検討 ・各事業に不正防止効果の視点を反映できるよう、担当課と打ち合わせを行った。	・牛久市成年後見地域連携協議会において、各委員が所属する団体等と協議会の関わりや成年後見等の担い手の育成について協議し、地域連携ネットワークの推進を図ることができた。 ・成年後見制度利用促進パンフレットの配布や成年後見制度の研修会を行い、市民や各関係者に権利擁護の必要性を周知することができた。 ・一次相談事業所や成年後見人等からの相談に対応し、権利擁護支援チームとして各関係機関と連携を図りながら、本人を支援することができた。また、チーム支援会議を開催し、本人の課題解決に向けて話し合うことができた。 ・成年後見人等候補者調整会議を開催し、本人の課題を解決するために適切な成年後見人等候補者を調整することができた。
(4) 課題解決のための情報提供及び支援		
① 生活福祉資金貸付事業	○相談件数 89件 ・生活費の不足 36件 ・医療費の不足 6件 ・転居費用 5件 ・債務の返済 5件 ・教育支援資金 3件	・新型コロナウイルス特例貸付の償還に関する相談及び償還猶予申請の対応を行った。特例貸付利用者からの相談に応じてフォローアップを行った。相談者の状況に応じて自立相談支援事業に

実施事業名	実施内容	実績成果等
②特例貸付フォローアップ支援事業	・特例貸付猶予 2 件	つなぎ、就労支援や家計相談を行った。
	・リバースモーゲージ 1 件	
	・その他 31 件	
	○相談件数（重複あり） 159 件	
	・償還免除者 31 件	
	・免除に至らない償還困難な借受人 117 件	
	・償還猶予 11 件	
	・自立相談支援機関へのつなぎ 43 件	
	・少額返済相談で県社協へのつなぎ 6 件	
	・償還猶予申請 3 件	
③小口資金貸付事業	○相談件数 0 件 ・貸付件数 0 件 ・償還件数 0 件	
④歳末たすけ合い配分事業	○在宅援護対象見舞金配布事業 ・対象：173 世帯×15,000 円 ○一人暮らし高齢者ふれあい訪問事業 ・対象 75 歳以上一人暮らし高齢者 1,922 名 ・配布数 1,822 名	・ふれあい訪問事業は、コロナ後地域の交流が希薄化している中、対象者の皆さんに大変喜ばれた。
⑤自立相談支援事業	○生活困窮者の新規相談件数 225 件 ・貸付相談 89 件 ・住居確保給付金 16 件 ・特例貸付償還について 21 件 ・就労相談 8 件 ・滞納、債務相談 5 件 ・ひきこもり 1 件 ・就労準備支援カフェ参加、問合せ 10 件 ・病気相談 4 件 ・食べるものがない 31 件 ・DV、虐待 1 件 ・その他 39 件 ○自立支援計画（プラン）作成 27 件 ・住居確保給付金 1 件 ・就労準備支援事業 3 件 ・家計改善支援事業 5 件 ・就労支援 11 件（重複あり） ・被保護者就労準備支援事業 3 件 ・被保護者家計改善事業 1 件 ○他制度利用や支援へのつなぎ 69 件 ・生活福祉資金特例貸付償還猶予申請 3 件 ・生活保護の相談へのつなぎ 9 件 ・食糧支援 34 件 ・生活保護受給者等就労自立促進事業 8 件	・新たに被保護者就労準備支援事業及び被保護者家計改善支援事業が加わり、相談対応数も増加した。 ・就労準備支援カフェを毎週開催し、働くことに悩みを抱えている方の就労相談や、家族以外の人との関わりが少ない方等の交流の場とした。 ・牛久小地区カフェ及びつきいちカフェを毎月 1 回開催し、働くことに悩みを抱え、家族以外の人との関わりが少ない方の居場所作りのひとつとして実施した。 ・プラン対象者の成果として、一般就労 2 名、増収者 2 名であった。 ・家計改善支援事業では 4 名の対象者に、月々の生活収支や市税滞納状況など確認し、将来的に自己管理できるよう支援を行った。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・一般就労 9 件 ・福祉的就労 2 件 ・増収者 4 件 ○支援調整会議の実施 12 回 個別ケース検討、プラン策定、終結の承認 ○関係機関との連携 ・市役所 92 件 ・ハローワーク 31 件 ・障害者相談支援事業所 11 件 ・就労継続支援事業所 23 件 ・地域包括支援センター 4 件 ・法テラス 12 件 ○フードバンクと連携した食糧支援 34 件 (米 181.7 kg、食品 418.4 kg) 市民からきずな BOX への食品提供 (米 768.0 kg、食品 1122.3 kg) ○関係機関研修会の実施 ・7/6 19 名 中央生涯学習センター 講師：松原真佑氏（茨城県福祉部福祉政策課） 講話：生活困窮者自立支援制度について ○就労準備支援事業 ・就労準備支援カフェの実施 48 回 参加人数延べ 219 名 就労相談 5 名 ・牛久小地区カフェの実施 11 回 参加人数延べ 27 名 ○被保護者就労準備支援事業 ・つきいちカフェの実施 8 回 参加人数延べ 34 名 ○家計改善支援事業 ・対象者 4 名 (新規プラン作成 5 件、支援回数 44 回) ○被保護者家計改善支援事業 ・対象者 1 名 (新規プラン作成 1 件、支援回数 18 回)	
3. ニーズにあったサービスの開発と実施 生活課題の多様化・個別化に対し、関係機関等との連携を図りながら、質の高い福祉サービスを提供するとともに、新しいサービスを開発し実施する		
(1) ニーズに即した介護保険事業の展開		
①居宅介護支援事業	○利用実績 開所日数 295 日 契約件数 245 名	・要介護認定の申請者数が増えていることから、一般相談や包括支援センターからの新規相談が増加している。

実施事業名	実施内容	実績成果等	
②通所介護事業	・ 介護保険 実利用者数 185 名 延利用者数 1,495 名 介護保険収入 25,867,967 円	介護支援専門員の担当件数に上限があるため、調整しながら受入を行ってはいるものの、実利用者数は増えている。(介護:169 名→185 名・予防:51 名→ 58 名)	
	・ 介護予防支援 実利用者数 58 名 延利用者数 566 名 介護予防支援収入 2,456,294 円		
	・ 認定調査 認定調査件数 (牛久市) 60 件 (他市町村) 28 件 認定調査収入 (牛久市) 231,000 円 (他市町村) 128,590 円		
	○利用実績 開所日数 309 日 契約者数 107 名 実利用者数 107 名 延利用者数 7,870 名 一日平均利用者数 25.4 名 介護保険収入 74,022,226 円 平均単価 9,410 円 (令和 4 年度比 158 円増)		・ 認定調査は、更新認定が調査不要の簡易的手順となっていたが、令和 5 年度より牛久市も通常更新となり、件数も 32 件から 60 件へと戻りつつある。 ・ 新型コロナウイルスの影響により、令和 5 年 8.9 月、令和 6 年 1.2 月に利用者様及び職員に陽性者が発生し、感染への不安から一時的に利用者様の利用控えが起こる時期はあったが、年間を通して、1,045 名の利用増となった。平均利用者数も 25.4 名で、令和 4 年度と比較して、3.3 名増となった。 ・ 季節毎の行事に加え、訪問演奏を鑑賞する機会やリボンアートボールワークショップといった新たな行事の機会を設けることで、利用者様の生活意欲の向上や交流促進につながった。 ・ 少人数制での外出レクリエーションでは事前にアンケートを実施し、利用者様の希望に沿って外出を行った。少人数での行動という形にすることで、落ち着いたタイムスケジュールで、各利用者様の希望に柔軟に対応することができ、満足度のアップにつながった。 次回も外出レクに参加できるように日頃から運動を頑張ろうという利用者様も居られ、運動の
	○行事 (季節行事) ・ 牛久アヤメ園散策 (全 7 回) 計 59 名参加 ・ 夏祭り (全 4 回) 計 103 名参加 ・ あゆなまみあな吹奏楽団訪問演奏 計 19 名参加 ・ ぶどう狩り (牛久シャトー) 計 4 名参加 ・ うしく菊花公園散策 (全 11 回) 計 76 名参加 ・ 新年会 (全 3 回) 計 74 名参加 ・ リボンアートボールワークショップ 計 25 名参加		
	○外出レクリエーション ・ グランベリー大地 (苺狩り) 計 9 名参加 ・ つくばローズガーデン 計 8 名参加 ・ カラオケ 計 3 名参加 ・ 霞ヶ浦観光遊覧船 計 5 名参加 ・ アクアワールド大洗水族館 計 6 名参加 ・ 果物狩り (梨・ぶどう) 計 7 名参加 ・ 笠間工芸の丘 (陶芸体験) 計 5 名参加 ・ いばらきフラワーパーク 計 3 名参加 ・ 雪印メグミルク阿見工場見学 計 11 名参加		

実施事業名	実施内容	実績成果等
③訪問介護事業	・ファーム八千代（苺狩り） 計 2 名参加 ○創作活動及び畑、苗植え作業 4 月 ハーバリウム作り、花植え、畑作業 5 月 季節の絵手紙作り 6 月 菖蒲の壁飾り作り、サツマイモ苗植え 7 月 風鈴作り、麦わら帽子の壁飾り作り 8 月 ビーズアクセサリ作り 9 月 プラバンキーホルダー作り 10 月 ハロウィンのかぼちゃ作り 11 月 紅葉のつるし作り 12 月 松ぼっくりツリー作り 1 月 しめ縄リース作り 2 月 梅の色紙作り 3 月 桜のつるし飾り作り、花カゴ風小物入れ作り ○ボランティア受け入れ ボランティア数 15 名 夏祭りボランティア 9 名 外出レクリエーションボランティア 2 名 新年会ボランティア 3 団体 (風の歌・華路の会・牛久かつぱ太鼓)	意欲向上にもつながっている。 ・創作活動において、年間計画を立て、月毎に季節にちなんだテーマのプログラムを準備することで、利用者様の意欲向上や交流促進につながった。 また、ボランティアの方から創作活動の支援を受けることができる等、地域の方との交流にもつながっている。 ・カラオケや麻雀等、利用者様のニーズに合わせて、機会を設けることで、趣味サークルのような雰囲気、各利用者様の充実感や交流促進につながっている。 また、お試し体験の利用者様からも好評をいただき、新規契約の獲得にもつながった。 ・理学療法士の指導による機能訓練を実施することで、利用者様自身が意欲的に運動を行い、体力や筋力の維持向上につながった。 ・令和 5 年 6 月よりボランティアの受け入れを再開した。ボランティアセンターとの連携や市総合福祉センター内にボランティア募集チラシを掲示したことにより、ボランティアの協力をいただくことができています。 また、夏祭りや新年会においても、ボランティアの協力をいただくことができた。 ・令和 5 年度から祝日を休業日にしたため、営業日数は 270 日から 246 日となった。 ・令和 5 年度途中から介護福祉士の資格のある職員が 1 名増え、令和 5 年度末には 2 名の職員が介護福祉士となった。 資格保持者が増えたことで事業所の加算要件が変わり、介護報酬区分を上げて算定できるよう
	○利用実績 開所日数 246 日 ・介護保険 契約者数 21 名 実利用者数 18 名 延利用者数 1,171 名 一日平均利用者数 4.7 名 介護保険収入 5,514,246 円 ・障害者総合支援 契約者数 29 名	

実施事業名	実施内容	実績成果等
	実利用者数 25 名 延利用者数 1,102 名 一日平均利用者数 4.4 名 総合支援収入 6,269,680 円 ・移動支援 契約者数 13 名 実利用者数 10 名 延利用者数 300 名 一日平均利用者数 1.2 名 移動支援収入 1,160,870 円	になった。 ・エールからの依頼が多く入ることもあり、障害者総合支援の利用者数は増減しながらも一定数を維持している。
(2) ニーズに即した障害福祉サービスの展開		
①知的障害者デイサービス事業	○利用実績 開所日数 247 日 登録者数 64 名 実利用者数 64 名 延利用者数 12,351 名 一日平均利用者数 49.9 名 自立支援費収入 130,328,974 円 利用者負担金収入 2,617,007 円 ○就労継続支援 B 型事業 ・請負作業 収入 2,396,567 円 (株)マーナ (株)シバコーポレーション (株)イムロ茨城工場 ブックオク(株)牛久店 茨城トヨタ自動車(株) 市役所依頼の作業 通所介護浴室清掃 居宅介護支援・訪問介護公用車洗車 ・自主製品 収入 10,498,876 円 パン・クッキー製造 名刺印刷 ・外出活動 国営ひたち海浜公園 (5/12.19.26,6/2) 茨城県大洗水族館 (6/15.22,7/11) 買い物・ランチ (9/14.22) 成田ゆめ牧場 (10/13.20) りんご狩り (11/8) 鉄道博物館 (12/8) ボウリング (1/11.17.25) いちご狩り (2/22,3/7.13) 笠間稲荷神社 (3/1)	・契約者数は、4 月に新規利用者様が 1 名増えて 64 名となり、3 月末に 1 名が施設入所することとなった。1 日の平均利用者数は令和 4 年度より 0.4 名増の 49.9 名だった。自立支援費収入は 4,248,426 円、利用者負担金収入は 304,427 円の増収となった。 ・請負作業においては新規開拓を行い、新たに 3 社との取引が始まった他、洗車や花壇の管理等の施設外就労も請負い、利用者様に新たな仕事に挑戦していただいた。請負作業の収入は、令和 4 年度より約 65 万円の増収となった。 ・自主製品事業では、イベントへの出店も増え、多くの場所でパン・クッキー等を販売することができた。また、民間保育園 1 ヶ所と農産物直売所にも販路を拡大し、自主製品全体では令和 4 年度より約 340 万円の増収となった。 ・利用者様一人あたりの月額平均工賃は、令和 4 年度より 3,726 円増の 16,470 円となった。 ・パン・クッキー活動において、赤い羽根共同募金寄付付き商品として、パンを販売し、総額 7,690 円の協力をいただいた。 ・外出活動は、利用者様のご希望

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・お花見（4/12,13） ○自立訓練（生活訓練）事業 ○生活介護事業 ・生活支援班 ・創作班 ・PT（理学療法士）指導 ・生産活動 ・自動販売機清掃 ・お楽しみ会（4/28,10/20,1/26） ・散策（科学万博公園 5/17～29） ・水のレク（7/24～29） ・調理レク（かき氷 8/28～9/1） （台湾カステラ 10/30～11/6） （チョコフォンデュ 3/4～8） ・市民文化祭見学（10/12.13） ・ナイスハートフェスティバル見学（12/7.8.11） ・外出 - 大洗水族館（7/3.13.18） - エキスポセンター（7/14） - スターライクボウル（7/19） - 房総のむら（11/28～11/30） - 筑波山（11/20.24） ・お花見（3/25～3/29） ○健康管理 ・身体検査（月 1 回） ・心電図検査（6/27～7/13 28 名実施） ・歯科検診（10/12 27 名実施） ・健康診断（11/16 25 名実施） ・新型コロナワクチン接種 （春開始接種 5/30・6/6 38 名実施） （秋開始接種 11/7・11/21 28 名実施） ○行事 ・夏祭り（7/8、31 家族 80 名参加） ・ぶどう狩り（10/11、20 名参加） ・クリスマス会（12/23、32 家族 80 名参加） ・ふれあいのスポーツ広場 （7/29、7 家族 17 名参加） ・茨城県障害者スポーツ大会（9/16、8 名参加）	を踏まえて少人数のグループで各所に出かけ、日々のリフレッシュと作業意欲の向上を図った。 ・令和 5 年度は利用対象者がいなかったため、実施せず。 ・日々の活動では、暑さが厳しく、屋外での活動が制限されることが例年より多く、体力や健康維持の面で運動量の低下が心配された。散歩の代わりに室内で体を動かす機会を設け、ボランティアグループに協力を依頼し、月 1 回体を使ったレクリエーションを取り入れたところ、ボランティアとの交流も含めて、楽しまれている姿が見られた。 ・日々の活動の中で共同制作した作品がナイスハートフェスティバルの作品展で県知事賞を受賞することができた。 ・外出活動では、事前のアンケートを踏まえ、利用者様の希望の外出先に少人数のグループで出かけ、思い思いに外出を楽しまれていた。 ・家庭だけでは難しい利用者様の健康管理のための機会を設けたところ、コロナ禍では少なかった心電図検査の希望者が、令和 5 年度は増加した。 ・新型コロナワクチン接種は、回数を重ねてきたことから、各家庭での対応が可能となり、わくわくでの接種を希望されない方も増えてきた。 ・新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたこともあり、どの行事も令和 4 年度より参加人数が多く、大変盛り上がった。行事によってはボランティアの協力をいただくことができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
②身体障害者デイサービス事業	○相談支援 ・第1回保護者懇談会（6/23,28 実施、19 名） ・第2回保護者懇談会（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止） ・第1回保護者面談（9/25～10/20） ・第2回保護者面談（2/26～3/22） ○日中一時支援事業 平日利用延人数 735 名 土曜日利用延人数 309 名 運営費補助金収入 2,852,262 円	・第1回保護者懇談会は、就労継続支援事業と生活介護事業に分けて2日間に渡り実施した。 ・平日の平均利用者数は3名。 ・土曜日の平均利用者数は6.8名。
	○利用実績 開所日数 245 日 登録者数 48 名 実利用者数 45 名 延利用者数 3,103 名 一日平均利用者数 12.7 名 市受託金収入 38,310,608 円 ○訓練活動 ・社会生活訓練及び日常動作訓練 ・機能訓練 - OT による機能訓練（月 8 回） - PT による機能訓練（月 8 回） - ST による言語訓練（月 1 回） ○生きがい活動 ・創作活動及び趣味教養活動（毎日） 籐細工、陶芸、絵画、書道、塗り絵、パソコン等 ・スポーツレクリエーション（週 1 回） ペタンク、フライングディスク、バグジー、卓球バレー、シャッフルボード、ストラックアウト ・健康講座（年 3 回） 46 名 - 熱中症 (6/28) 12 名 - 体組成 (10/25) 14 名 - 口腔ケアと嚥下（1/10）20 名 ・趣味教養講座（年 3 回）45 名 - 扇子づくり (7/26) 15 名 - リースづくり (11/29) 14 名	・令和5年度新規登録は4名だった。体調不良で長期間お休みされた利用者様が3名、介護保険のサービスに移行された利用者様が3名いたため、1日の平均利用者数は令和4年度比1.0名増の12.7名となった。 ・機能訓練においては、専門家（OT・PT・ST）の指導により、自身の身体の状態を理解し、必要な運動に取り組んでもらうことができた。また、生活指導員が個々の生活課題に合わせて、個別の訓練や少人数での運動を行うことで、モチベーションを維持しつつ、機能の維持向上に繋げることができた。 ・陶芸や籐細工等では、上肢や手指の動きを意識しながら、意欲的に取り組むことができた。 ・スポーツレクリエーションでは、様々な障がいのある方でも関心を持ち取り組んでいただけるようにルールを変えながら取り組むことで、利用者様同士が楽しみながら、身体を動かすことができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
③放課後等デイサービス事業	アートクロック（3/29）16名 - 作品展への出展 県ナイスハートフェスティバル（12月） 個人14名、団体1点 市民文化祭（10/12.13） 小坂団地文化祭（11/12） - 作品販売 小坂団地夏祭り（8/5） うしく Wai ワイまつり（11/3） 奥野ふれあいまつり（11/23） - 県障害者スポーツ大会（5/14）7名 地域障害者スポーツ大会（9/30）6名 - 屋外活動 アクアワールド大洗水族館（6/30）21名 牛久シャトーぶどう狩り（10/12）11名 うしく菊まつり（11/2.6.9.10）16名 ナイスハートふれあいフェスティバル見学（12/8）22名 ○相談支援	- ナイスハートフェスティバルは、日頃から意欲的に作品作りに取り組み、14名の利用者様が出展し、1名の利用者様が茨城県身体障害者福祉団体連合会会長賞を受賞することができた。交流を深めながら制作した共同作品1点は、特別賞（県知事）を受賞することができた。 - 作品展への出展だけでなく、イベントでの作品販売に向けて、意欲的に創作活動に取り組むことができた。 - 屋外活動のアクアワールド大洗は、令和4年度までは新型コロナウイルス感染症対策で実施日を分けていたが、令和5年度は実施日を分けて1日で行った。利用者様からは、久しぶりに大人数での外出はにぎやかで楽しむことができた等の声を聞くことができた。 - ナイスハートフェスティバルの見学は、利用者様自身の日頃の創作活動の成果を確認するだけでなく、他の出展者の作品を鑑賞することで刺激を受け、さらなる創作活動の意欲につながった利用者様が多くいた。見学の後に、いこいの村涸沼で昼食と買い物をしたことで、利用者様からは作品展だけでなく、食事も買物も楽しめた等の喜びの声を聞くことができた。 - 相談支援においては、相談支援事業所や居宅介護事業所等と連携を行い、サービス調整や介護保険への移行の相談、福祉用具の購入等の相談に対応し、生活課題の解決に繋がった。
	○利用実績 開所日数 296日	1日平均利用者数が令和4年度よりも0.9名増えて8.4名となった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	契約者数 25 名 実利用者数 24 名 延利用者数 2,483 名 一日平均利用者数 8.4 名 障害児通所給付費収入 23,830,886 円 利用者負担金収入 1,188,879 円 日中一時支援費収入 467,334 円 受託事業収入（公費）措置分 1,766,095 円 ○外出活動 ・公園散策 (5/6、6/10、6/24、11/11) ・カフェ・ピアーズでの昼食 (8/7、8/29、12/25) ・市民文化祭見学 (10/14) ・ナイスハートフェスティバル見学 (12/9) ・女化神社へ初詣 (1/6) ・カラオケ (3/26) ○調理活動 ・バーベキュー (4/15、10/21) ・オムライス (5/20) ・ペッパーランチ (7/22) ・アレンジそうめん (8/12) ・チャーハン (8/15) ・オムナポリタン (8/21) ・ピザ (9/30) ・キンパ (1/27) ○その他 夏祭り、クリスマス会参加	た。また、実利用者数が 2 名増えて 24 名になったことに加え、継続利用者の利用日数も増加した。 ・令和 5 年度は、新型コロナウイルスの 5 類移行に伴い、外出活動の機会を増やし様々な場所に遊びに行くことができた。公園散策では外で弁当を食べたり、公園で遊ぶ時のルール（遊具の使い方、譲り合って使用する等）を学ぶことができた。カラオケに行った際は、好きな曲を歌ったり友達の歌に合わせて楽器を鳴らしたりして楽しく過ごすことができた。 ・感染対策を行いながら調理活動も再開し、中庭でバーベキューをしたり、ホットプレートを使い様々なメニューに挑戦することができた。 ・夏休みは暑い日が続いたため、水遊びを多く取り入れた。また、福祉センターのホールで体を動かす活動等、熱中症に注意しながらも楽しく活動することができた。 ・1 年を通して創作や運動等様々な活動をバランスよく設定することができ、子どもたちも楽しく活動に参加し、笑顔がたくさん見られることができた。 ・申請者数は横ばいだが、タクシー券の利用は伸びている。 ・利用者様からは、飼育に必要な費用負担が軽減されると喜ばれた。
④福祉タクシー利用料金助成事業	○重度障害者福祉タクシー利用料金助成	
	・人工透析 35 名 ・その他 97 名	
⑤補助犬飼育管理費助成事業	○身体障害者補助犬の飼育経費を一部助成	
	・盲導犬利用者 1 名	
(3) ニーズに即した児童発達支援事業・保育園事業の展開		
①こども発達支援センター事業	○利用実績 ・開所日数 246 日 ・登録者数 171 名 ・実利用者数 156 名 ・延利用者数 3,922 名	・令和 4 年度と比較し、登録者数 4 名減、実利用者数 8 名減、1 日平均利用者数 1.5 名減であった。少子化が進む一方で、市内に児童発達支援事業所が増え、他事業所

実施事業名	実施内容	実績成果等
② ふれあい保育園事業	・一日平均利用者数 15.9 名 ・障害児通所給付費収入 46,904,209 円 ・市受託金収入 11,510,905 円 ○発達支援 ・小集団指導 延 3,200 名 (内 肢体不自由児クラス 0 名) (内 1～2 歳クラス 69 名) ・個別指導 延 1,292 名 ○家族支援 ・学習・講習 - 就学説明会、就園おはなし会 31 名 - 保護者勉強会 (全 4 回) 67 名 - 療育基礎講座 (全 3 回) 25 名 - ペアレントトレーニング (3 回/3 グループ講座) 10 名 - おしゃべり会 (全 24 回) 延 85 名 ・主な行事 - 夏まつり 75 名 (親子 52 組) - 秋の遠足 12 名 (親子 9 組) ・きょうだい児対応 延 1,039 名 ○相談援助 延 189 件 ○地域支援 ・新規相談 (インテーク) 69 件 ・保育所等訪問支援 (給付対象分) 65 件 (延 146 名) ・その他の訪問支援 (給付対象外) 19 件 (延 156 名) ・公開療育 未実施 ・保育士研修会への協力 3 回 ・教委巡回相談への協力 19 回 ・就学時健診への協力 8 回 ・かるがも教室 36 回 ・療育相談 12 回 (延べ 17 名) ・ケース会議の開催 4 回 ・市要保護児童対策地域協議会実務者全体会議 1 回 ・市子ども子育て会議 3 回 ・市いじめ問題専門委員会 3 回 ・市教育支援委員会 4 回	を利用 (または併用) する児童が増えていることの影響と考えられる。 ・おしゃべり会は、年中クラスの会に、きぼうの広場から先生にきていただき、就学の流れ等の話ができる。 ・ペアレントトレーニングは、予定では 2 グループであったが、ニーズが多く 3 グループの開催となった。 ・夏まつりや遠足を開催し、親子でふれあったり、他の家族と交流したりする機会となった。 ・保育所等訪問支援は、令和 4 年度比 46 名減の延べ 146 名となった。 ・園からの依頼で、園の先生と保護者を交えたケース会議を実施し、園と園児、保護者の困り感に寄り添い、園での生活がよりスムーズに送れるよう、支援ができた。
	牛久ふれあい保育園 ○運営実績 ・本園 125 名 (利用定員 130 名)	・コロナが 5 類となり、控えていた活動を再開。行事等の見直しも行いながら、園児の安全に配慮

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・分園 19 名（利用定員 20 名） ・開園日数 295 日 ○特別保育事業 年間延べ人数 ・延長保育事業 1,808 名 ・一時保育 70 名 ○委託費収入 本園 145,657,750 円 分園 48,412,790 円 <主な行事> 毎月の誕生会、交通安全指導、食育活動、夏祭り、運動会、七五三集会、向台小学校給食体験、クリスマス会、発表会、お別れ遠足、卒園式 奥野さくらふれあい保育園 ○運営実績 ・72 名（利用定員 78 名） ・開園日数 295 日 ○特別保育事業 年間延べ人数 ・延長保育事業 213 名 ・一時保育 204 名 ○委託費収入 91,218,800 円 <主な行事> 毎月の誕生会、こいのぼり集会、プール開き、七夕、遠足 ハロウィン、七五三集会、りんご狩り、味噌づくり、クリスマス会、豆まき集会、発表会、ひな祭り、交通安全教室、卒園式 上町ふれあい保育園 ○運営実績 ・本園 129 名（利用定員 130 名） ・分園 12 名（利用定員 12 名） ・開園日数 295 日	し、園内・外の活動を実施することができた。 ・市全体で待機児童が減少する中、特に分園は園児数を 13 名から 19 名に増やし増収につなげることができた。 ・小学校・児童クラブ・保育園で定期的に会議を実施。情報交換を密に行い学校内の問題の共有化を図った。また、児童クラブと合同避難訓練・消火訓練を実施。共有スペースの使用方法等も改めて話し合いを行い、施設内にいる子どもたち全員の安心・安全に配慮した。 ・向台小学校の行事に年長組が積極的に参加。交流を図る他、進級への期待も高めることができた。 ・市内の子どもの数が減っている中、相対的に園児数の減少が見られたため、利用定員を 90 名から 78 名に変更。一人当たりの給付金を増額し対応した。 ・おくの義務教育学校のスポーツフェスティバル、スポーツ大会等へ参加。多数の交流を持つことができた。 また、地区社協主催の芋ほり、お祭りへの参加等地域交流が盛んにできた他、地元の味噌蔵での味噌づくり体験やリンゴ狩り等地域に根ざした活動を充実することができた。 ・コロナ対策等により縮小で行っていた行事の見直しをし、安全に配慮しながら全園児対象での活動を増やした。以前のように活気が戻り、職員のモチベーション

実施事業名	実施内容	実績成果等
	○特別保育事業 年間延べ人数 ・延長保育事業 3,369 名 ・一時保育 233 名 ○委託費収入 本園 138,266,090 円 分園 22,793,750 円 <主な行事> 毎月の誕生会、季節ごとの集会（端午の節句など、お楽しみ会（年長児）、交通安全指導、食育活動、園外保育、牛久小学校授業体験、夏まつり、運動会、発表会、クリスマス会、おわかれ遠足、卒園式	アップにも繋がった。 ・隣接する第二幼稚園が閉園に向け 5 歳児 1 クラスとなってしまうため、月 1 回様々な学年が訪問し、交流の機会を増やした。園内だけでなく、他園との異年齢交流も園児にとってよい刺激となった。 ・牛久小学区地区社会福祉協議会「サロンとまり木」を訪問したり、上町行政区の夏祭りで和太鼓を披露するなど、地域交流の場も増え、人と人との繋がり大切さを改めて感じ、園児や保護者とも共有することができた。 ・保幼小交流も回数が増え、就学への期待を持てたり、交友関係の広がりをつくることができた。

Ⅲ.地域の福祉力を高める。

1. 支えあう心を養う

福祉の心を養い、地域福祉活動への関心を高める環境を整備する

(1) 情報発信による地域福祉活動の活性化

①「こんにちは！社協です」の発行	○社協広報紙の発行 ・6/1 号、9/1 号、1/1 号、3/1 号の発行（各戸及び関係機関配布）	・社協会員募集のお願いや各事業の紹介等、幅広く周知することができた。
②社協パンフレットの配布	○社協パンフレットの作成及び配布 ・社協の主事業をまとめた総合パンフレットの作成及び周知 1,500 部	・多くの市民や関係者等に社協パンフレットを配布し、事業の紹介や理解を広められた。
③ホームページによる情報発信	○ホームページの運営及び公開 ・ホームページの活用 ・SNS の活用	・ホームページ及び SNS を随時更新し、社協の情報を発信した。

2. 小地域福祉活動の推進

小地域福祉活動の基盤を整備し、住民主体の活動を支援する

(1) 小地域福祉活動の基盤づくりと活動支援

①地域福祉活動のコーディネート	○地区社協活動への主な支援・協働活動 ・牛久小学区地区社協：住民交流としていやしの郷の実施、サロンとまり木の運営 他 ・二小学区地区社協：地区社協ボランティア移送の実施、サロンむつわの運営 他 ・おくの地区社協：おくのふれあいまつり、一人暮らし高齢者見守り訪問活動の実施 他 ・神谷小学校区地区社協：小学生と高齢者をつ	・新型コロナウイルス感染症の 5 類移行を受け、引き続き感染に気を付けながらも、住民同士がふれあう交流活動や大型イベントなどが再開され、それらの活動が円滑に進むよう支援した。 ・介護予防・生活支援サービス事業の通所型サービスや地区社協
-----------------	---	--

実施事業名	実施内容	実績成果等
	なぐふれあい訪問、健康ウォーキング他 ・向台小学校区地区社協：地区社協ボランティア移送の実施、収穫祭青空市の出店他 ・岡田小学校区地区社協：1対1の見守り活動、地区社協ボランティア移送の実施 他 ・中根小学校区地区社協：地元探索ウォーキング、一人暮らし高齢者見守り訪問の実施 他 ・ひたち野うしく小学校地区社協：ひたち野ふれあいまつり、防災研修 他 ○地区社協会長会議の開催 ・4/17、8/29、1/15	ボランティア移送サービス事業の運営についても、地域のボランティアの協力により実施することができた。
②地区社協活動支援助成事業	○地区社協活動支援助成金の交付 ・地域の実情に即した地区社協活動の促進を図り、地域住民による地域福祉の増進に寄与 牛久小学区地区社協、二小学区地区社協、おくの地区社協、神谷小学校区地区社協、向台小学校区地区社協、岡田小学校区地区社協、中根小学校区地区社協、ひたち野うしく小学校区地区社協 8地区社協×50万円	・赤い羽根共同募金の配分金を活用し、地区社協活動を支援するための助成事業を行い、各地区社協で地域の実情に合った活動が推進された。
③地区社協支援事業	○地区社協活動支援事業の実施 ・地区社協の運営費助成と、地区社協活動を推進するため、地域福祉コーディネーターを設置し、円滑な事業運営を支援 牛久小学区地区社協、二小学区地区社協、おくの地区社協、神谷小学校区地区社協、向台小学校区地区社協 岡田小学校区地区社協、中根小学校区地区社協、ひたち野うしく小学校区地区社協 8地区社協×20万円	・地区社協運営費を助成することによって、役員会及び運営委員会など、各地区社協とも円滑な組織運営及び事業が推進された。 ・コーディネーターを設置し、地区社協と連携し、適切な支援が行えるよう体制の充実を図った。
④認知症の人を支えるまちづくり事業	○認知症サポーター養成講座の実施 ・8小学校 769名	・小学校において、認知症への理解をとおして、支え合いの大切さを伝えることができた。令和5年度もボランティアの協力を得て講座を実施した。
⑤生活支援体制整備事業	○第1層協議体の設置 ・地域生活支援協議会の開催 第1回 5/19 19名 第2回 2/29 22名 ・スキルアップ研修の開催 8/24 19名 市役所分庁舎第1会議室 講演 地域福祉活動をするということ これ	・第1層協議体では、市全域の課題である地域福祉活動の広報と担い手の育成について協議した。 - 第2層協議体では、地域の福祉課題に応じたスキルアップ研修等を、各地区社協と共催で開催し、それぞれの課題や対応等について

実施事業名	実施内容	実績成果等
⑥福祉委員会	からの「幸せ力」を考える 講師 長谷川幸介氏 ○第2層協議体の設置運営 ・牛久第二小学校区 7/3 9名、9/25 8名、1/31 9名 スキルアップ研修 12/4 30名 ・中根小学校区 7/4 11名、10/12 10名、2/8 12名 スキルアップ研修 12/10 54名 ・牛久小学校区 6/22 10名、10/5 10名、2/1 9名 スキルアップ研修 11/24 62名 ・神谷小学校区 7/7 13名、9/29 10名、2/2 11名 スキルアップ研修 12/5 44名 ・ひたち野うしく小学校区 6/19 7名、9/26 8名、1/30 7名、 スキルアップ研修 12/10 33名 ・岡田小学校区 6/30 12名、9/28 11名、2/2 11名 スキルアップ研修 10/24 34名 ・向台小学校区 6/26 11名、10/2 11名、2/16 9名 スキルアップ研修 12/12 32名 ・おくの義務教育学校区 7/3 10名、10/16 11名、2/5 11名 スキルアップ研修 1/31 49名 ○福祉委員会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年度に引き続き開催を中止し、個別訪問等で内容説明及び資料配布 5月18日(木)～31日(水)福祉委員宅訪問 ・社協会員の募集依頼について ○社協会費 ・一般会費 15,383世帯 7,091,950円 ・特別会費 46世帯 63,300円 ○赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金運動打ち合わせ会議 9月21日(木)開催 ・赤い羽根及び歳末たすけあい募金協力依頼について	て理解を深めるとともに、次のステップとして、具体的な活動に進むことを共通認識することができた。 ・令和4年度比731世帯、439,840円の減となった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
(2) 人や地域がつながる活動の支援		
①地域福祉活動助成事業	○助成金交付審査会の開催 ・6/20 委員 5 名 ○申請団体 8 団体 ○助成決定団体 8 団体、15 事業 ○助成額 421,000 円	・新規に 2 団体から申請があった。赤い羽根共同募金の配分金を活用し、障がい者支援や子育て支援等、地域福祉の向上につながるボランティア・市民活動の一助となった。
②地区社協ボランティア移送サービス事業	○生きがいサポート協働事業の実施 ・二小学区地区社協 火・金曜日に外出サポート 利用者数：延べ 434 名 ・岡田小学校区地区社協 火・水・金曜日に外出サポート 利用者数：延べ 323 名 ・向台小学校区地区社協 月・木・金曜日に外出サポート 利用者数：延べ 164 名	・二小学区地区社協、岡田小学校区地区社協、向台小学校区地区社協が通院等の外出サポートを行い、その活動を支援した。
③ふれあいサロン活動の推進	○ふれあいサロン設置状況 計 65 か所 ・地域サロン 59 か所 回数 2,488 回 延べ人数 29,098 人 ・子育てサロン 6 か所 回数 60 回 延べ人数 919 人 ○ふれあいサロン研修会 ・講演：自分の生活習慣にあった健康法を発見しよう！ 10/14 46 名 牛久市中央生涯学習センター	・研修会では、健康でいるために必要な要素や生きがいと健康の関係について学び、自分らしい健康的な生活を送るための意識向上につながった。
(3) 住民参加による相互扶助活動の充実		
①有償在宅福祉サービス事業	○ふれあいサービス 高齢者世帯及び障害者世帯への掃除や食事づくり等の家事援助 ・協力会員登録者 165 名（実動 20 名） ・利用会員登録者 154 世帯（実利用 17 世帯） ・延べ利用回数 563 回 ・延べ利用時間 451.5 時間	・独居世帯のゴミ捨てや掃除等の相談が増加傾向にある。
②ファミリーサポートセンター事業	○ファミリーサポート 家族が子どもの面倒を見られない時の保育や送迎及び産前産後の家事援助 ・協力会員登録者 175 名（実動 33 名） ・利用会員登録者 621 世帯（実利用 32 世帯） ・延べ利用回数 804 回 ・延べ利用時間 961.5 時間	・新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、多子世帯の産前産後の家事支援や兄弟姉妹の保育依頼が増えた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
③重度身体障害者移送サービス事業	○重度身体障害者移送サービス 車イスの方等一人での歩行が困難な方が通院・社会参加等の際の移送支援 ・協力会員登録者 24 名（実動 10 名） ・利用会員登録者 52 名（実利用 13 名） ・延べ利用回数 504 回 ・延べ利用時間 264.5 時間	・主な活動は、通院及び当事者団体の定例会議等への移送である。通院やりハビリについては増加傾向である。
3. ボランティア・市民活動の活性化 活動支援体制を強化し、常に新たなニーズに対応できる、市民に役立つボランティア・市民活動センターの充実を図る		
(1) 個々の活動支援と団体相互の連携強化		
①育成支援活動	○各種講座の開催 ・はじめてボランティアオンライン講座 4・6・8・10・12・2月の第4木曜日～ 1週間 YouTube で公開 延べ 16 名 ・NPO 入門講座 7/6 9 名 ・中高生ボランティア JINRIKI®体験講座 8/10 6 名 ・親子ふれあい体験 3/2 8 家族 18 名 ・地域別はじめてボランティア入門講座 7/25、7/27、7/31、2/19、2/20 18 名 ・災害ボランティアセンター運営訓練 9/12 49 名 ○福祉教育推進事業の強化及び福祉教育の活性化 ・福祉体験教室 車イス体験、アイマスク体験、 高齢者疑似体験 小学校 6 校 延べ 646 名	・新規事業として、中高生を対象に講座を実施した。障害者の移動について学び、けん引式車椅子補助装置 JINRIKI®の体験を行った。 ・令和 4 年度に続き、小学校区別の入門講座を開催し、新たな地域活動の支援者発掘につながった。
②ネットワーク活動	○ボランティア団体等登録状況 登録団体数 221 団体（4,573 名）、 個人 502 名、 計 5,075 名 ○ボランティア・市民活動団体等との連携・協働活動の実施 ・ゆめまちネット牛久市ボランティア・市民活動ネットワークの事務局と協働連携 ・ボランティアリーダー研修会 9/16 65 名 牛久市中央生涯学習センター 講演：地震・風水害等自然災害への備え ○施設等ボランティア ・8/23 施設等のボランティア担当者研修会 9 施設 9 名 事例発表と情報交換	・新規に活動をスタートさせる団体が 4 団体あり、センター登録につながった。 ・多発する自然災害に備え、地質学者の天野先生を講師に招き講演を行った。 ・対面集合形式研修で、主要施設の職員による事例発表と情報交換を行い、参考となった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
(2) 新たなニーズにも対応できる機能の整備と充実		
①相談・あっせん活動 ②センター機能充実	○センター設備及び相談窓口の整備 ○活動に関する需給調整 ・ボランティア相談件数 133 件 ・紹介件数 64 件 ○運営委員会の開催 ・5/30、2/15 ・研修会 9/27 講演：災害ボランティアセンターに関わる茨城県社会福祉協議会の取り組み ○ボラセンニュース（市内回覧）発行 ・5/1、7/1、9/1、11/1、2/1 ○ホームページの運営	・福祉施設や行政区からのボランティア活動の依頼が増え、施設やイベントへの紹介件数が増加した。 ・近年の災害に対応する県社協の取り組みや市社協の職員派遣について発表を行った。
IV.役に立つ組織に再構築する。		
1. 職員教育の徹底 職員研修の充実を図り、住民の視点に立った地域福祉の推進役となる専門性を持った職員を育成する		
(1) 計画的な職員の育成		
①計画的な職員の育成	・各種専門研修への参加 ・内部研修の実施 ・計画的な職員採用 採用試験 6/3,8/5,10/21,1/21 の4回実施	・求人広告サイトを利用したの職員募集や、新卒学生、既卒者向けの職員採用試験を年4回実施し、令和6年4月採用となる5名の専任職員を採用した。
2. 安定した財源の確保 コスト意識を徹底し、効果的で効率的な自律した経営に努める		
(1) 積極的な財源の確保		
①自主事業の効率的運営及び拡充 ②会費の拡大	・介護保険事業、障害者支援事業、牛久ふれあい保育園、奥野さくらふれあい保育園、上町ふれあい保育園の拠点区分ごとに自主事業を運営 ・市内法人に電話連絡及び訪問により、社協法人会員への協力を依頼 275 社 (2,853,000 円)	・利用者の参加意欲を促すような内容を取り入れた事業展開を図るとともに、常にコストを意識した事業運営に努めている。 ・令和4年度対比、1社減、15,000 円の減となった。
3. 計画の進行管理 この計画の進捗状況を確認し、進行を管理する。		
(1) 理事会による進行管理		
①理事会による進行管理	●理事会 ○第1回 5月29日（月） ・令和4年度一般会計収入支出補正予算(第6号)専決処分報告 ・令和5年度一般会計収入支出補正予算(第1号)専決処分報告 ・令和4年度事業報告	・市内の出生者数や在園児数の動向を鑑み、今後奥野さくらふれあい保育園の園児数の確保が見込めないことから、バランスの良い運営と、より行き届いた保育サービスを実現するため利用定員を78名に減員する提案をした。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・令和４年度一般会計収入支出決算 監査報告 ・奥野さくらふれあい保育園利用定員の減員 ・指定居宅介護支援事業所運営規程の改正 ・指定訪問介護事業所運営規程の改正 ・指定通所介護事業所運営規程の改正 ・指定第一号訪問事業所運営規程の改正 ・指定第一号通所事業所運営規程の改正 ・副会長の選任 ・評議員候補者の提案 ・苦情解決第三者委員の選任 ・第１回評議員会の開催 ○第２回 ６月２９日（木） ・会長、副会長及び常務理事の選任 ・職員就業規則の改正 ・職員の育児・介護休業等に関する規則の改正 ・保育園管理規程の改正 ○第３回 ９月１日（金）書面決議 ・第２回評議員会の開催 ○第４回 １０月１１日（水） ・会長の選任 ・評議員候補者の推薦 ・令和５年度一般会計収入支出補正予算(第２号)専決処分報告 ・令和５年度一般会計収入支出補正予算(第３号)専決処分報告 ・令和５年度一般会計収入支出補正予算(第４号)専決処分報告 ○第５回 ３月１５日（金） ・令和５年度一般会計収入支出補正予算(第５号)専決処分報告 ・令和５年度一般会計収入支出補正予算(第６号)専決処分報告 ・令和５年度一般会計収入支出補正予算(第７号)専決処分報告 ・定款の改正 ・事務局規程の改正 ・経理規程の改正 ・令和６年度事業計画 ・令和６年度一般会計収入支出予算 ・職員就業規則の改正	・令和５年３月３１日付けで、副会長の内藤雪枝牛久市保健福祉部長が定年退職により退任されたため、牛久市保健福祉部長の渡辺恭子理事を新副会長として選任した。 ・苦情解決第三者委員として、弁護士で心配ごと相談員の大西敦氏、司法書士で心配ごと相談員の岩田哲孝氏を選任した。 ・理事任満了に伴い、新たに評議員会で選任された理事の中から、会長に根本洋治氏、副会長に渡辺恭子氏、石野雅昭氏を選任した。 ・根本洋治会長の辞任に伴い、後任の会長に沼田和利牛久市長を選任した。 ・成年後見制度に関する相談対応事業の整理により、成年後見サポートセンター事業を廃止し、定款より削除した。 ・改正高年齢者雇用安定法による７０歳までの継続雇用制度導入のため、嘱託職員及びパートタイム職員の雇用については、満６５歳までとし、引き続き雇用を希望する職員は、評価や健康状態を勘案し、おおむね７０歳まで継続雇用することとなった。 ・牛久ふれあい保育園の園長(施

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・職員の育児・介護休業等に関する規則の改正 ・嘱託職員就業規程の改正 ・パートタイム職員就業規程の改正 ・役員等賠償責任保険契約の締結 ・第 3 回評議員会の開催 ・牛久ふれあい保育園園長（施設長）の選任 ●評議員会 ○第 1 回 6 月 29 日（木） ・令和 4 年度一般会計収入支出補正予算(第 6 号)専決処分報告 ・令和 5 年度一般会計収入支出補正予算(第 1 号)専決処分報告 ・令和 4 年度事業報告 ・令和 4 年度一般会計収入支出決算 監査報告 ・理事及び監事の選任 ○第 2 回 10 月 11 日（水） ・理事の選任 ○第 3 回 3 月 27 日（水） ・令和 5 年度一般会計収入支出補正予算(第 2 号)専決処分報告 ・令和 5 年度一般会計収入支出補正予算(第 3 号)専決処分報告 ・令和 5 年度一般会計収入支出補正予算(第 4 号)専決処分報告 ・令和 5 年度一般会計収入支出補正予算(第 5 号)専決処分報告 ・令和 5 年度一般会計収入支出補正予算(第 6 号)専決処分報告 ・令和 5 年度一般会計収入支出補正予算(第 7 号) ・定款の改正 ・令和 6 年度事業計画 ・令和 6 年度一般会計収入支出予算 ・理事の選任 ●評議員選任解任委員会 ○第 1 回 5 月 29 日（月） ・評議員の選任 18 名 ○第 2 回 10 月 11 日（水） ・評議員の選任 1 名	設長)として、主任保育士であった藤巻彩子職員を園長に選任した。 ・理事及び監事の任期満了に伴い、理事 14 名、監事 2 名を選任した。 ・根本洋治会長の辞任に伴い、沼田和利牛久市長を理事に選任した。 ・染谷前教育長の後任理事として、川村教育長を理事に選任した。 ・評議員構成団体の役員交代等に伴い、各団体等からの推薦書に基づく理事会の提案により、19 名の評議員の選任を行った。

実施事業名	実施内容	実績成果等
4. 適切な法人運営、事務局運営 地域住民とともに住みよいまちづくり実現を目指すための組織、運営体制の整備に努める		
(1) 事務局運営体制の整備		
① 効率的な事務局運営	○一般寄付 ・現金 48 件 1,089,039 円 ・物品 21 件 タオル類、紙おむつ、お米等	・保育園や介護保険事業、市内の社会福祉施設等で活用できる、実用的な物品を多数寄付いただいた。
(2) 情報発信機能の充実		
① 効果的なパブリシティの促進	・社協活動や福祉活動の情報を、社協広報紙（年 4 回）、パンフレットの配布（年 1 回）、地域かわら版（毎月）、ホームページ運営、SNS 活用（随時更新）、FM うしくうれしく放送により市民へ情報提供	・SNS による情報提供により、市民に最新の情報提供が行えている。 ・FM うしくうれしく放送で「社会福祉協議会だより」のコーナー（毎週 1 回）を設け、社協職員による事業紹介を行っている。